

書塾の仲間たち

第 282 回

つばめ書道教室（神奈川県川崎市）



● 書塾からひとこと ●

弘法大師様を奉る川崎大師のそばで、私たちは和気藹々と書写書道の稽古に取り組んでいます。教室内は元気な声飛び交い、笑顔が絶えない明るい雰囲気になっています。私が日頃の指導において意識していることは「生徒と対等であること」「生徒の眼を養い感覚を掴むこと」「指導がよい塩梅であること」の三つです。

稽古の準備や片付けは生徒自身が行います。稽古年数を重ねるうちに、使用している筆の状態の変化や硯の汚れにも気づくようになり、自ずから道具を大切に扱う気持ちが育まれているように感じます。

生徒一人ひとりの希望に応じて、毛筆と硬筆共に幅広い課題に挑戦しています。新しい課題や難しい運筆に取り組むときは、私の鉛筆や筆の動きを観察してもらい、その後、一緒に筆を持って入筆の角度や筆圧の感覚を身体に馴染ませるように指導しています。

指導について、私からの助言は姿勢や字に対する提案に留め、手助けや強要をしすぎないよう心がけています。また、一度に詰め込みすぎても定着せず、逆に少なすぎても成長につながらないと考えて、伝えたいことは一度に教えず、要点のみを三回程度に絞って伝えます。

このような取り組みを続けたところ、生徒たちが自発的に考え、試行錯誤する姿が見られるようになり嬉しい限りです。今は学年を問わず、自ら作品の課題に気づき、私に伝えてくれます。

点数では評価されない書道の世界だからこそ、生徒と一緒に達成感を積み重ねることを大切にしています。これからも皆で稽古に励み、「心に響く」作品を作っていこうと思います。

つばめ書道教室 斎藤桜舟

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

いつまで一緒にいられるか、
わからないというところを
しっかり心にとめて、おたがい
を大切にしよう。

中学二年 書道部 級 初段 氏名 吉川 雅礼



美しい文字を探求していこうと思います

茨城県立並木中等教育学校 高校三年 吉川 雅礼

私が通う書道教室は、まるで「実家」のような安心感に満ちた明るく温かい雰囲気のところ。いつも熱心に指導してくださる先生や、共に切磋琢磨し合う大切な仲間たちと一緒に筆を執る時間は、私にとって毎週の大きな楽しみです。

小学二年生の時に書道を始め、気づけば約十年の月日が経ちました。これまでの歩みの中で、私は始筆や終筆、筆脈といった文字一つひとつの個性や作品全体の調子を細部まで入念に確認して書くことの大切さを学びました。それらを深く意識するようになり、自分の作品の質が目に見えて向上していくのを実感できるようになりました。納得のいく作品を完成させるのは、神経を使い、高い集中力が求められるため、非常に時間のかかる作業です。しかし、自分の作品と手本を何度も見比べながら修正を重ねていく地道な過程は私にとってとても楽しく、最も充実した時間でもあります。

このたびの昇段試験で合格の通知が届いた瞬間は、胸がいっぱいになり言葉にできないほど嬉しかったです。「今まで一步一步、地道に努力を積み重ねてきて本当に良かった」と、心から喜びが込み上げてきました。

私がここまで書道を楽ししく続けられたのは、自分の成長をいつも一緒に喜んでくださる先生や温かい仲間、そして一番近くで支えてくれる家族のおかげです。今回の合格を新たな励みにして、これからも周囲への感謝の気持ちを決して忘れず、一筆一筆に情熱を注いでさらに美しい文字を探求していこうと思います。

私と書写書道 第282回

留貝白勿

小六 高島 絆愛



自分と向き合い、心を整える時間

岐阜県各務原市立八木山小学校六年 高島 絆愛

私が小学二年生のときにお母さんからのすすめで習字を始めました。最初はあまり気が進まず、「面どうだな」と後ろ向きな気持ちで取り組んでいました。その後、初めて筆を持って、真っ白な半紙に向かったとき、えん筆と全く違う書き心地におどろきました。すみのにじみやかすれ、筆の自由な動きがとてもおもしろく、「もっと上手に書けるようになりたい」と引き込まれたのを覚えています。

私にとって習字は、ただ字をきれいに書くための習い事ではありません。静かに自分と向き合い、心を落ち着かせる大切な時間です。学校や家で嫌なことがあった日も、半紙の前で座ると、不思議と気持ちがスッと静まり、集中することができます。一画一画をていねいに書くことで、乱れていた自分の心まで整っていく、そんな気がしています。

普段の練習では、お手本をよく見て、文字の形だけでなく、全体のバランスや力の強弱に気をつけています。先生に指導していただいた部分は、次に同じ間違いをくり返さないよう、体になじむまでおさらいします。思うように書けないときは、納得がいくまで何枚も書き直します。そうやって少しでも上達を実感できたときは、いっそううれしい気持ちになります。これからは、ただきれいなだけでなく、もっと力強く、見る人の心に響くような美しい字が書けるようになりたいです。日々の練習を「二期一会」の気持ちで大切に取り組み、習字を通して技術をみがく以上に、自分の「心」を成長させることが大事だと思っています。